

4) 外傷性出血

広瀬 保夫(新潟市民病院)
救命救急センター)

外傷性出血に対する血管内手術は、Transcatheter Arterial Embolization (TAE) の技術を用いた、出血の治療が主体となる。外傷性出血に対する TAE は、1) 侵襲が少ない、2) 短時間で施行可能、3) 臓器温存が可能になる例が多い、等の利点がある。特に骨盤骨折に伴う後腹膜出血は、手術的な止血が極めて困難であり、TAE による止血が第一選択となっている。当救命救急センターにおける外傷性出血に対する TAE 施行例は、

1993 年 6 月～1999 年 6 月の 3 年間で計 60 例で、近年増加傾向である。その内訳は、骨盤骨折 36 例、肝損傷 19 例、腎損傷 4 例、脾損傷 3 例、大腿外傷 2 例、顔面外傷・血胸各 1 例となっている。

腹部臓器損傷例に TAE を行う場合には、開腹術の適応を誤り delayed laparotomy を招来しないことに十分に注意する必要がある。血管内手術は、開腹術、創外固定、あるいは診断的腹腔洗浄 (DPL) 等と組み合わせて総合的に利用すれば、外傷性出血に対して有力な治療手段となりうる。